

令和2年度  
不動小学校  
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

確かな学力を身につけ、夢や希望を持ち、たくましく未来を切り拓く子どもの育成をめざして  
・主体的・対話的に学びながら、自ら考え表現する子供の育成  
・望ましい生活習慣を身につけ、自己実現をめざす子供の育成

学力向上推進員 低学年担当 岡内美和  
委員 研修主任・特別支援教育コーディネイター・高学年担当 井上博子  
中学年担当 津田宗宏 教務主任 築地寛明 人権教育主事 野村敏之  
算数主任 篠原万寿代 特別支援コーディネイター・国語主任 長瀬有希

校長 竹中章公

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
漢字・計算の基礎的な学力が定着してきている。計算は、プリテストをして各自の目標値を設け、94%の児童が、目標を達成した。校内漢字検定は96%の児童が合格した。	①宿題や日記を欠かさずに提出し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②語彙数が増え、正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。	①計算は、80%以上の児童が学年の目標を達成する。 ②校内漢字検定では、該当学年の漢字の読み書きを90点以上にする。 ③校内算数検定で90点以上とする。	・単位換算では、単元導入時に、具体物を用いて単位の関係を実感できる場面を設定し、量感を養う。また、フラッシュカードでの反復や生活の中で用いる単位についてのプリント等で定着を図る。 ・引き続き、音読や読み聞かせに取り組み、語彙を増やす。 ・日記等の指導を通して、既習漢字を使う習慣化を図る。		
①算数では、難しい問題に取り組む途中で計算ミスが目立つ児童がいる。 ②語彙数が少なく、問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	①モジュール学習で四則計算の強化を図り、基礎学力の底上げをする。(徹底反復、アイテムの共有化) ②かさの単位換算は、意味と量感を養うことに留意し、定着を図る。 ③音読教材の活用や、教員作成の音訓カードを繰り返し活用することで、様々な熟語や音訓読みを覚え語彙を広げる。 ④日記や作文等の表現活動で既習漢字を適切に使えるような支援の仕方を工夫し、定着を図る。(辞書活用の習慣化)	①成果が自分で分かる工夫をする。(タイム・正答率等) ②プリテストを学年始め(5月)とポストテストを学年末(1月)に実施し結果を比較する。見通しを持って学習が進められるように支援する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
①行事や児童集会の進行や挨拶などは、長い文章でも暗記して人前でも堂々と話すことができる。 ②対話的で深い学びを意識した授業を取り入れることで、自分の考えを説明する機会が増え、表現力の育成につながりつつある。	目的に応じて情報を選び、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを話したり書いたりできる。	「不動小学校人権アンケート」の全校集計結果「友達の前で自分の考えや意見を発表することができる」「友達に伝えたいことをうまく伝えることができる」を70%以上にする。	・ホワイトボードを活用し、意見を比較・分類できるようにする。 ・授業のみならず、朝の会や帰りの会などの中で、児童が発言する機会を多く設けるとともに評価を行う。 ・自分の考えを自分の言葉として友達に伝え合い、深めていくことができる教材研究を行う。		
①自分の考えを話したり説明したりすることには少しずつ慣れてきたが、論理的に説明をしたり友達の発表を受けて自分の意見を言ったりすることには課題がある。 ②話すことに抵抗のある子供もいるため、低学年のうちから友達に自分の考えや思いを伝える喜びを感じさせるよう積み重ねることが必要である。	①発表の手引きや思考スキルシートを活用し、自力解決に重点を置いた授業の工夫やどの児童も意見を言ったり自分の考えを説明したりできるようにする。 ②授業の中で、資料を読み取ったり目的に応じて情報を活用したりする力の育成や、友達と考え方を深め合い学級全体で練り上げ学び合わせる授業の展開のために教材研究をすすめる。 ③知識・技能をつなぐ(関連づける)深い学びをめざし、子ども達に考えさせ、理解が深まるよう言葉かけを工夫する。	①学校評価教員アンケート「子供の思考力・判断力・表現力等の育成のための指導方法の工夫を凝らしている」の数値を90%以上にする。 ②学習アンケート「文章を読んで問題について考えるのは好き(国語)」「みんなにとき方を説明するのは好き(算数)を70%以上にする。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
家庭学習の習慣や朝の読書が定着してきている。家庭学習の学校平均目標時間達成率は80%であった。	①「家庭学習の手引き」を活用し、一定時間、家庭学習をする習慣を身につけることができる。 ②課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ、自信をもつことができる。	読書の時間と家庭学習の目標達成率を全体で80%以上にする。 読書 1・2年100冊、3年70冊、4年以上50冊か4000ページ 家庭学習 1・2年20分、3年30分、4年40分、5・6年1時間	・「家庭学習の手引き」「自主学習の手引き」などを定期的に配付し、より活用できるようにする。 ・具体的な自主学習の例を挙げながら、自主学習の質を高める。 ・朝の会や週末読書など、本に親しむ機会を増やし、読書の目標達成率を上げる。 ・単元を貫く課題を意識させながら、児童が自らの学びを自覚し、次時の学習課題を見い出せるよう振り返りの時間を確保する。		
①家庭学習の時間はほぼ達成できたが、低学年のうちからの家庭学習の積み重ねや、目標時間に加えて学習量や質についての指導が必要がある。 ②高学年の読書目標達成率が低い。	①「家庭学習の手引き」をもとに家庭との連携を大切にし、家庭学習の内容の充実を図る(優れたノートの紹介・具体的な自主学習の手引きや見本の活用・進級テスト実施) ②読書の習慣化を図る。(読書タイムの確保、国語学習の際の関連図書の並行読書、家庭読書の推進) ③学習のゴールが具体的にイメージでき、主体的に学習に取り組めるようにするために課題解決型のめあてを提示し、課題のつかませ方を工夫する。 ④児童が自らの学びを自覚し、次の学習課題をもてる振り返りの時間を確保する。	①宿題や自主学習ノートを点検し、学校評価の児童アンケート「すすんで宿題や自主学習に取り組んでいる」を80%以上にする。		評価	次年度における改善事項

令和2年度 学力向上ロードマップ

